

2024年度 事業計画書

学校法人 山梨英和学院

目 次

2024 年度事業計画 理事長巻頭言	1
I 大学	2
II 中学校・高等学校	9
III 認定こども園	16
IV 学校法人（法人本部）	19

2024年度事業計画 理事長巻頭言

4年間に亘ったコロナ禍による各種制限が解除されて1年となる2024年度、日本社会は以前の日常を取り戻しているように見えます。しかし、パンデミックがもたらした真の影響はまだ明らかではありません。少なくとも少子化の進展を更に速めたことは間違いなく、人口減少社会が到来している今、様々な課題を抱える日本社会が厳しい時代を迎えていることは確かです。

2024年度、山梨英和学院は創立135年を迎えます。この節目の年は新たな中長期経営計画の開始年度となり、2022年度後半から練り上げてきた10年ビジョンと中期計画がいよいよ動き出します。この先5年間、10年間で山梨英和学院の大学、中高、こども園が為すべき教育・保育・研究を、建学の精神と不朽の校訓「敬神・愛人・自修」に基づく新たな10年のミッションとビジョン、そしてアクションプランによって明らかにしました。これが、この厳しい時代を生き残っていくために必要な対策となります。

各事業計画・諸施策には可能な限り数値目標を定めました。そして、益々激しさを増す少子化の逆風の中で減り続けている学生数、生徒数を、この計画を実行することによって、今現在が最低数として増加させていかなければなりません。時間は余り残されていません。

今、私達は、これまでの135年間、どのような困難にあっても山梨英和学院を支え導いてくださった父なる神を信頼し、神よりの知恵と力を求めつつ、教職員一人一人が各自の持ち場立場で与えられた分を果たしていく所存です。そして、全教職員の持てる力を結集して、新たな事業計画・諸施策を進めてまいります。

2024年度年度聖句

あなた方に平和があるように。

父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす。

ヨハネによる福音書20章21節

理事長 小野 興子

I 大学

大学

1 はじめに

2024 年度予算の策定にあたっては、現在検討中の次期長期ビジョン・中期計画およびアクションプラン、及び法人の予算編成方針に従い粛々と進める。

2 基本方針

1. 目的意識と費用対効果の視点

全ての事業において、

- ① 目的意識を明確にし、限られたリソースの適切な配置を行う。
- ② 無駄なものを徹底的に洗い出し、常に費用対効果の視点を持って執り行う。

2. 諸方策の検討・改革・改善・実行

学長中心のガバナンスにより、意志決定と変革のスピードを上げ、諸方策の検討・改革・改善・実行を着実にを行う。

3. 予算編成にあたって

予算積算においては、法人の予算編成方針に従い、事業活動収支の均衡・単年度での収支均衡を念頭において、既得権意識を排除し、ゼロベースから厳しく積算する。ただし教育・研究・運営・施設設備等に係る追加的重点事項・突発的事項に対応するため、相応の学長裁量費の計上を行う。

3 事業計画

(重点事項)

1. 戦略的學生募集施策

- 1) カスタマージャーニーとエリアターゲティング、階層（学年）を意識した、戦略的かつ継続的な入学者確保施策の実施

- 重点的な県内広報の実施（特に重点8校）
- 重点地域、特に長野・南信（松本・諏訪）地域への広報
- 通信制高校との連携

- 2) OMO 戦略の実施

※OMO（Online Mergers with Offline）戦略とは、オンラインとオフライン（リアル）を融合させ、顧客経験の向上を図るマーケティング戦略のこと。

- 3) CX 戦略の実施

※CX＝カスタマーエクスペリエンス（顧客経験価値）

本学の特徴ある教育や入試広報コンセプトを明確にし、高校生の内面に訴えかけ、感情的な価値・顧客の経験価値の最大化を図る。

- 4) 学生募集業務の効率化の為の、システム導入と適切なアウトソーシングの実施
 - web 出願システムの新規導入（大学共通テストでも 2025 年より導入予定）
 - 発送代行の見直し（顧客管理から発送までを外注化）
- 5) 留学生獲得のための施策実施
 - 日本語学校との密接な関係性確保
 - 特別提携校の設定（山梨外語学院含む）
- 6) 選ばれ続けるための伝えるべき価値の創出と広報
- 7) オウンドメディアを活用した広報施策の実施
 - 大学の社会的な価値を高める web コンテンツの開発・供給

2. 教育力向上施策

- 1) 内部質保証システムの具現化
- 2) 学生支援体制の充実（インクルーシブ教育システム確立を含む）
- 3) 進路・キャリア形成支援の強化（特に 3 省同意インターンシップ）
- 4) 新図書館システムの着実な運用
- 5) 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）（MDASH*-Advanced Literacy）取得に向けての施策実施
- 6) 日本語教師の国家資格化に伴う日本語教育機関認定制度についての対応

3. ブランディング戦略施策

- 1) 中長期ビジョン・アクションプランの選定、及びその確実な実施
- 2) 3つのポリシー（アドミッション、カリキュラム、ディプロマ）、及び各方針の見直し

- 3) 社会・地域連携体制の強化
地域連携部の新設（従来のメイプルカレッジと COC+推進室の融合+α）
- 4) キリスト教教育体制の充実施策の実施
- 5) ステークホルダー（同窓生含む）との連携強化
- 6) 国際化施策（留学生受入・派遣含む）の戦略的实施
国際部（準備室）の新設
- 7) 多様な学生の受入体制（英和版インクルーシブ教育システム）の確立
障害学生支援室の新設（学生部兼務を想定）

4. 持続性実現のための経営改善計画

- 1) 役職、会議体、組織構成の見直し
- 2) 適切な人事計画の遂行
- 3) 計画的な施設設備・環境整備の実施
- 4) 業務合理化施策の検討と実施
- 5) 適切な財政管理
- 6) 財源確保施策の検討（検定料・学生納付金の見直し、通信制導入検討など）
- 7) 収支バランス改善の取り組み（補助金獲得施策、奨学金比率の見直しなど）
- 8) その他収入増加・支出抑制施策の検討と実施

4 主な教育・研究の概要

- 建学の精神：ミッション

キリスト教精神を基盤とした山梨英和大学は、校訓である「敬神・愛人・自修」のもとに、「他者とともに生きる」、「他者とともに在る」大学として、次のような資質を持った地域に根ざした「よき隣人」の輩出を目指す。

- 1 キリスト教精神に基づき、地域住民を中心としたすべての人の「こころ」に寄り添い、様々な境遇にある隣人のすべてを愛し、助け合うマインドセットを持っている。
- 2 地域の中で自身が果たすべき役割の具体像を持ち、そのために必要な知識やスキ

ルを自ら発見し、生涯にわたって磨き続けることができる。

- 3 地域に押し寄せるグローバル化に適応し、主体的な参加、責任を持った行動ができるグローバルシチズンシップを持っている。

- 教育研究目的と方針

大学

- ビジョン

山梨英和大学は、真に国際的な大学となることを目指す。それは、様々な国や地域から学生を受け入れることだけではない。本学は、国籍や民族の違いを超えて、常に国際的な視点でものを考えるとともに、自らの立脚点をしっかりと見据えて地域社会と密接に連携しつつ、キリスト教精神に根ざした深い人間理解のもとに、世界の平和と安定のために活躍する人材を輩出することを目指す。

現代は、様々な国や地域で発達した文化が、あるいは融合し、あるいはより独自に発展しつつ、グローバル化している時代である。こうした時代にあって、山梨英和大学人間文化学部においては、人間文化を理解する基礎基本を学ぶべく、言葉の理解と表現方法の習得、情報の伝達手法（コミュニケーション能力）の習得、人間の心の理解などを幅広くかつ深く学び、極めることを目指す。これらを包括する名称として「人間文化学」を掲げ、人間文化学部人間文化学科（一学部一学科）を設置している。

- 「卒業に関する方針」（ディプロマポリシー）

「人間文化学」のカリキュラムにおいて所定の単位を修めることにより、次に示す能力や資質などを備えた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

1. 人間文化学に関わる幅広い教養と体系的な知識を修得し、多面的・論理的な判断に基づいて課題解決に取り組むことができる。
2. 他者を理解しながらさまざまな手段で自らの考えを表現し、円滑なコミュニケーションをはかることができる。
3. 多様な文化や価値観を受け入れ、キリスト教教育によって培った倫理観をもって地域社会の発展に貢献できる。

- 「教育課程の編成及び実施に関する方針」（カリキュラムポリシー）

1. 1・2年次で中心的に学ぶ基礎科目群では、キリスト教の精神を学ぶ科目、自己理解・他者理解のための科目や地域社会を理解するための科目に加え、人間文化を理解するための基盤となる創造性・協調性・コミュニケーション・ICTなどの高度な活用能力（フルーエンシー）を実践的に身につける。
2. 2・3年次では修得したフルーエンシーを基盤とし、人間文化学を形成する下記の3つの専門領域を体系的に学ぶ。サイコロジカル・サービス領域：「こころ」を理解し「ひと」を支える心理の専門家をめざす。グローバル・スタディーズ領域：グローバルな視点から日本と世界を見つめ、真の国際人をめざす。メディア・サイエンス領域：ICTを駆使して新たな価値を創造するクリエイター、イノベーターをめざす。
3. 3・4年次では、「専門ゼミナール」や「卒業プロジェクト」などに代表される、専門領域を深く追究する科目を学ぶとともに人間文化学を横断的に学ぶための領

域融合科目を学ぶ。

さらに、4年間をとおして幅広い教養を身につけたり、自己を磨いたりするための科目として「オープン科目」を設けている。

またキャンパスの内外を学びのフィールドと位置づけ、学外での学修活動をも推進すべくクォーター制とセメスター制を併用する。授業においてはフィールドワークやアクティブラーニングを積極的に取り入れ、カリキュラム全体で学生主体型の教育を行い、さまざまな分野でのフルーエンシーを醸成するようになっている。

- 「入学者の受入に関する方針」（アドミッションポリシー）

山梨英和大学は、「敬神（神を敬い）、愛人（人を愛し）、自修（自らを修める）」を校訓としている。キリスト教精神に基づく建学の精神に由来するこの校訓と今という時代における大学のあり方に対して真摯に向き合い、地域に根ざした大学として教育・研究活動を行っている。本学では次のような学生を積極的に受け入れる。

1. 奉仕の心をもって、地域や国、さらには世界の発展に貢献したいと考えている人
2. 文化や言語のちがいを越えて他者を理解し、ともに学ぼうとする意欲をもつ人
3. 主体的に学ぶ姿勢をもち、地域はもちろんのこと地球規模の課題にも積極的にチャレンジする人
4. 本学の学習に対応できる基礎的な学力を有する人

大学院（人間文化研究科 臨床心理学専攻）

- ビジョン

現代は、多くの人たちが高度に発達した科学技術文明の恩恵を享受する一方で、人の精神的営為との齟齬が表面化することによる社会不安が増幅している時代でもある。山梨英和大学では、こうした認識に基づき「人間の心理」を学問的に探求するのみではなくきわめて具体的に「心に悩みをかかえている人」への支援を実践する人材を養成すべく、大学院に臨床心理学専攻を設けた。大学院に臨床心理学専攻を有する大学は、山梨県内においては本学のみである。心のケアが今後ますます必要とされる時代にあつて、本専攻の存在意義や社会からの要請はさらに大きくなっている。本専攻が、大学院人間文化研究科の専攻として位置づけられていることは、臨床心理学という研究分野が「人間文化」とは決して切り離すことができないことを意味している。人間文化についての深い理解なくして人間の心を深く理解することはできない。

- 「卒業に関する方針」（ディプロマポリシー）

山梨英和大学大学院人間文化研究科（臨床心理学専攻）は、臨床心理の専門家を養成することを第一義とするカリキュラムにおいて所定の単位を修得し、かつ、修士論文の審査及び最終試験に合格することにより、次に示す能力や資質などを備えた学生に対して修士課程修了を認定し学位を授与する。

1. 本大学院修了後にも学ぶべき課題を持ち、学び続ける自発的な向学の姿勢を有する。
2. 個人にも集団にも目を向ける対人姿勢を備え、人間に対する尊敬の念、謙虚さと誠実さをもって人を活かしつつ関わるという対人援助を自らの役割として心得ている。

3. 医療、教育、産業、福祉、司法など、どのような臨床領域においても適切な援助や介入のあり方を判断し、地域の専門機関と連携をしながら、実行する実践力を有する。
 4. 心理学の方法や観点に基づいて職場内の課題を調査研究し、解決への提言を出すことができるような知識と方法を有する。
 5. 学校や地域や企業などにおいて、予防のために心の健康の重要性を教育する力を有する。
 6. 臨床家としてのあり方の背景にキリスト教精神に基づく死生観を持ち、特に「緩和ケア」、「高齢者援助」などの死に直面する課題に対する臨床的関わりの中にそれを活かすことができる。
- 「教育課程の編成及び実施に関する方針」（カリキュラムポリシー）
山梨英和大学大学院人間文化研究科（臨床心理学専攻）は、教育目的を達成するために、大学院設置基準、日本臨床心理士資格認定協会の「臨床心理士第1種指定大学院」としての指定条件並びに公認心理師法に基づく公認心理師法施行規則第2条に定める科目条件を満たすとともに、学部における学びとの連続性を図るよう教育課程を編成している。
 1. 開講科目は、主要な知識を技法論と共に学ぶ「基幹科目」、専ら臨床実践に習熟するための「臨床科目」、調査・研究のための手法を学ぶ「研究科目」の3つの科目群により編成する。
 2. 臨床心理学は実践の学であることから、多くの理論的科目においても実践的技法と関連づけて学ぶことができる授業を実施する。
 3. 学生が実社会と接して問題を発見し、文献や資料を検索して調査・検討したものを報告し、教員と討議できるよう、主体的に参加する授業を実施する。
 4. 多面的に展開して領域全体を広く展望できる授業と人の心を深く探求することで個人の特殊性の理解を目指す授業とを実施する。
 5. 実践家としてのみならず、研究者として実社会において活躍できるよう、課題の発見や研究の遂行を可能とする研究法に関する知識を提供する。
 6. キリスト教信仰に基づく隣人愛や人間存在を尊重する倫理観が、臨床家としてのあり方に反映することを目指した授業を実施する。
 - 「入学者の受入に関する方針」（アドミッションポリシー）
山梨英和大学大学院人間文化研究科（臨床心理学専攻）は、キリスト教精神による人間形成、社会への奉仕という建学の理念に基づき、臨床心理学的支援を実践できる高度な専門的職業人の養成を教育目的とする。この理念・目的に共感する、次のような人たちを国内外から広く受け入れる。
 1. 人間の心の問題の研究を通して、真に役立つ「心のケア」のあり方を探求するとともに、自己研鑽を深めつつ他者の心を支えようとする姿勢を持ちたい人
 2. 本大学院が提供するカリキュラムにより身につけた知識、技法、対人・対社会態度、共感的理解力を活かして、臨床心理士または公認心理師の資格を取得し、専門的職業人として社会に貢献したい人
 3. 本大学院が提供するカリキュラムによる自己研鑽を通して、臨床心理の専門家に期待される業務のみならず、自発的に課題に取り組み、研究し、提言することができる

きる社会的スキルを備えたい人

4. キリスト教精神に根ざした考え方を基盤として建学の理念を具現化するため、「精神的に他者と共に在る隣人愛」を実践したい人

Ⅱ 中学校・高等学校

1. はじめに

2024年度から始まる山梨英和学院の新中長期経営計画に沿って改革を進めていく。少子化が加速し、中等教育も大きな転換期にある中、「一人ひとりの賜物を見いだし」個々のニーズに合った教育の場を提供するために、2023年4月より、これまでの「山梨英和高等学校全日制課程」に加え「通信制課程グレイスコース」を設置した。「グレイス」とは「神様の恵み」を意味する。神様が私たち一人ひとりを愛してくださるように、他者を尊重し共存できる社会を作りだす生徒を育てる。そして、山梨英和の根幹であるキリスト教信仰を土台として、全ての教育が本校の校訓である「敬神・愛人・自修」につながるよう、信仰を持って祈りつつ歩む。

2. 基本方針

- ・ 教育理念：「敬神・愛人・自修」
- ・ 使命：「他者のために、他者ととともに」生きる女性を育てる
- ・ ビジョン：キリスト教信仰に基づき、世界に貢献できる自立した女性を育てる
- ・ 基本となる価値観：人間形成の確立・国際的な視野・社会貢献
- ・ 行動指針：生徒自身が考え、行動する力を育てる

教師自らが研鑽を重ね、質の高い教育を行う

<Yamanashi Eiwa Way より>

2024年度の目標：「一人ひとりの賜物を見いだし、伸ばす教育の実践 III」

「敬神」 「礼拝を大切にする」	神と向き合う・自分と向き合う・他者と向き合う 学校行事や生徒会活動を通して、
「愛人」 「相手を尊重する」	様々な他者と真の人間関係を育む コミュニケーション力・ディベート力を身につける 夢の実現に向けて努力する
「自修」 「高い志を持って研鑽する」	社会に還元できるように、自分の能力を高める あきらめない強い精神力を育む

3. 主な教育の概要

(1) 卒業の認定に関する方針

本校は建学の精神をキリスト教信仰に置く。また、本校の教育理念は、神を賛美し神の前に謙虚に立って、神と人ともに奉仕する人格を育成し、真理を学び、深き知性と品位を持つ子女を育成することである。

本校で学び、各教科における知識を取得し、所定の単位を修めるとともに、次に示す本校の学校生活での一般目標を備えた生徒に対して卒業を認定する。

- ① 真理を求めるひたむきな勉学と純真さとにあることを自覚できる。
- ② イエス・キリストにおいて啓示された神との正しい関係を求めて、常に自覚的に

生きることができる。

- ③ 一人ひとりかけがえのない存在であることを十分に知り、個性の確立に努めることができる。
- ④ 身体を強健にし、正しい判断力を身につけ、主体的に実践することができる。
- ⑤ 隣人との正しい関係をつくり、より良い学校社会を築きあげていくことができる。
- ⑥ 神と人ともに奉仕して、良い社会の形成者へと成長することができる。

(2) 教育課程の構成及び実施に関する方針

① 愛と奉仕の精神を理念とする宗教教育

始業前、毎朝行われる礼拝では神をあがめ、隣人を思い、自分自身の命と存在の意味を考える。聖書の授業のほか、修養会、クリスマス礼拝などの行事を通しての宗教活動は本校教育の根底にあるプロテスタントのキリスト教信仰に基づくものである。

② 中・高6ヶ年教育

戦後の新制学校制度以来、中学・高校6ヶ年教育を実施してきた。その教育課程に流れるものは、中学校では基礎学力の充実と種々の体験学習に基づく進路指導にある。高校では、各人の個性と希望する進路実現に向けて選択授業による充実した学習を展開し、実力の養成に努める。

③ 国際的視野を広め、国際交流を通して培う人格教育

創立以来のカナダ人女性宣教師による厳格な人間教育と生きた英語教育の精神を継承し、国際的視野を広めることに努めています。海外にある3つの姉妹校は、いずれもキリスト教主義の女子校で、これまで3校とも活発な交流を行ってきた。コロナ禍の中、交流の実現は不透明であるが、これまで梨花女子高校（韓国）との長期交換留学制度や Mentone Girls' Grammar School（オーストラリア）とのターム留学制度を活用し多くの生徒たちが国際的視野を広めた。また A.B.von Stettensches Institut（ドイツ）には環境学習研修として訪問し、研究発表の交流を行ってきた。さらに、国際貢献を目的とする JICA 研修も充実しており、海外での豊かな体験により人格教育を実践するプログラムを提供していく。

(3) 入学者の受け入れに関する方針

本校は、1889年に創立した山梨県下唯一のキリスト教主義の女子校で、幅広い分野で活躍する卒業生を輩出してきた。校訓である「敬神」「愛人」「自修」のもと、キリスト教信仰に基づく人間教育を揺るぎない教育を理念とし、創立以来グローバルスタンダードな女子教育を実践していく。

国際的な視野に立ち社会に貢献できる自立した女性の育成を教育目標としており、以下の生徒を募集する。

- ① 本校志望の意思が強く、入学後は自らの進路実現に向けて、高い目標を持ち、学業に真摯に取り組む生徒
- ② 規則正しい生活ができ、学習を中心として、学校行事、地域と交流、部活動、学校外での活動（各種コンクールや大会、ボランティア活動等）にも積極的に参加し、常に自分を高めようとする生徒
- ③ 英語によるコミュニケーション能力の向上や資格取得に努め、国際交流等に意欲的に取り組む生徒。物事を科学的に捉え、論理的に考え、主体的に探求活動を行う生徒

- ④ 互いの違いを認め合い、豊かな人間関係が構築できる力を持つ生徒

4. 事業計画

長期ビジョンを策定し、これに基づいた中期計画（アクションプラン）の一環として、以下のとおり2024年度の実施を行う。

I. 長期ビジョン：

「敬神・愛人・自修」のスクールモットーの下、統合ビジョン・アドミッションビジョン・カリキュラムビジョン・グラデュエーションビジョン・組織ビジョンを以下のとおり策定した。

① 統合ビジョン：

「敬神・愛人・自修」を基盤に時代を捉えた教育の実践を通し、よりよい社会の実現に貢献し続けます。

② アドミッションビジョン：

スクールモットーへの共感と土台となる学力を有し、多様な他者と協働しながら地球市民として活躍を願う生徒を歓迎します。

③ カリキュラムビジョン：

時代を捉え、「敬神・愛人・自修」に基づく教育を追求します。

● キリスト教教育を基盤とした人格形成を促す体験

● 実践的な英語教育をはじめとした地球市民としての意識を培うダイバーシティ教育

● 最先端のICTを活用した生徒一人一人の学力の向上や興味関心を引き出すプログラム

● 学内外の多様な他者との出会いや協働を通じた探究活動

④ グラデュエーションビジョン：

キリスト教精神と確かな学力を基盤に、これからの時代に必要なデジタルスキル・地球市民としての意識・探求する心を備えたより良い社会の担い手として、自らあらゆる生徒を育てます。

⑤ 組織ビジョン：

私たちは対話とエビデンスに基づき、教育理念の実現と教育の質向上を追求する組織として躍動し続けます。

II. 中期計画（アクションプラン）

(1) 教育・研究関係

□ 重点事業

山梨英和の建学の精神に揺るぎなく立ち、キリスト教信仰に基づく本校の校訓である「敬神・愛人・自修」が、常に本校の中心にあることを全教職員が確認する。日々の礼拝を大切に、他者を思いやり、神様の言葉に謙虚に耳を傾ける生活をおくるよう心掛ける。校長が代わり、新体制で更なる前進を遂げ「生徒募集」に繋がる魅力ある教育を展開するよう努める。

① 「神を敬う」

本校の根幹にあるキリスト教信仰に基づく教育を実践する。そのためには毎日の礼拝を大切にする。コロナ禍以降、賛美の声が小さくなったように感じるが、高らかに神を賛美する礼拝を守れるよう祈り求める。「敬神」

② 「相手を尊重する」

生徒・保護者・教職員間で互いに尊重し全員で支えあう組織を目指す。困難な状況にある時こそ、小さいもの・弱いものに目を向け寄り添う。「愛人」

③ 「高い志をもって研鑽を積む」

教育界がこれまでにない大きな変革を求められている今、新たな教育の方向を探るために柔軟な対応が求められている。自己研鑽が欠かせない。校内教育研究会の内容を精査し、個々の生徒に対応可能な教育の実践を目指す。「自修」

最重要課題は以下の3点である。

① 「生徒確保」

少子化が加速し、県内のみの生徒確保は非常に厳しい状況にある。入試広報部の全日制と通信制グレイスコースを一元化し強化をはかる。県内全域を丁寧に訪問し、全日制と通信制グレイスコースの両方の地元の認知度をさらに高めるよう努める。また、2025年4月にドーマー甲府武田が新築オープンする予定であることから、ある程度の人数が確保できれば本校のみのフロア貸しも可能になる。近隣の県外（長野・東京・静岡）からの生徒はもとより、2025年度に向けて、留学生に対応できるカリキュラム及びスタッフを充実させ、積極的に海外からの私費留学生や帰国子女を受け入れる。中学募集においては、前年度を一人でも上回るよう対面での入試行事を魅力あるものにする。高校募集においては、本校の強みであるキリスト教教育、女子教育、英語教育、ICT教育、探究などの特色をわかりやすく発信し、全日制はもとより、通信制グレイスコースにおいても個々のニーズに応じた学びができることをPRする。

② 「探究活動の深化」

昨今、中等教育において「探究活動」の重要性が指摘されている。本校においてもSSH校に認定された2013年より探究活動をスタートさせ、今日の土台となっている。中高6年間で積み上げていく形であるが、まだ途上にあり十分に確立するには至っていない。今後、数年かけて山梨英和独自の6年間の探究プログラムを策定し、深化させていく。クリティカル・シンキング、コミュニケーション能力を磨き、生徒自らが課題を設定し、解決に向けて情報を収集・整理・分析したり、周囲の人との意見交換・協働したりしながら進めていくプロセス重視の探究学習は、生徒たちのその後の歩みにおいて必要不可欠であると確信している。論理的思考力、言語力、ICTスキルを活用して、探究学習を深化させることで、生徒ひとり一人が主体的学習能力を高めることを目標とする。その成果を進路実現に繋げて欲しいと強く願っている。将来的には、各教科との連携を図り、「(ジュニア)リベラルアーツ」教育として確立していくことを目指す。

③ 「通信制グレイスコースの充実・拡張」

本校は2023年4月に通信制グレイスコースをスタートさせた。該当区域を山梨県、長野県、静岡県、東京都、神奈川県としていたが、2024年度からは、さらに茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、愛知県、海外（米国、カナダ、ドイツ、エストニア、ポーランド、中国、香港、韓国、台湾、タイ、フィリピン、シンガポール、ベトナム、インドネシア、インド、オーストラリア、ニュージーランド）を加え地域を拡張する。また、山梨予備校、KAI高等学院と提携し、有料となるが希望者には個々のニーズに応じたレベルの学習サポートを提供する。姉妹校の東洋英和女学院高等部からの転入も複数あり、サポート校設置の要望も出ており、今後検討することになる。このように様々なニーズに対応できるよう、門戸を広げ体制を整えていく。

・ 人事

2024年度は、新校長のガバナンスの下、新中長期経営計画に沿って改革を進めていく。

2024年度には新規に期間採用教員として、国語科2名、理科1名、養護教諭2名、保健体育科1名を採用する。採用した教員については、校内での初任者研修等とおし、本校の教育理念の理解をはかるとともに、校内教研等の研修を促進し、教科指導のプロとして研鑽を積む機会を設ける。一方、2023年度末に退職する教員は定年者が校長及び専任教員2名(国語科)、自己都合による退職は専任教員3名(英語科、保健体育科、養護教諭)、期間採用教員1名(養護教諭)である。

また、2023年4月より通信制課程を設置したことに伴い、専任教員1名、嘱託教員1名の配置、事務職員1名の配置を予定しているが、教員・職員ともに仕事の効率化を図り、本校の教育理念に沿った教育を実践できるような体制づくりに向けて、人事配置計画の検討を継続する。

事務職員については、2023年度に専任職員1名を採用し、嘱託職員を2024年度の4月より専任職員に任用するが、山梨英和学院全体の事務組織の中で適する人事異動を検討する。

5. 生徒募集関係

[当該年度(翌年度募集)の計画]

中学入学生70名、高校入学生120名の確保を目標とし、達成するために次の方策を実施する。

① 積極的な広報を展開するために、昨年度のデータを慎重に分析し、次年度の年間活動計画を策定していく。これに基づき学校、塾の地域別担当を決め、教職員全員体制できめ細かな募集活動を展開する。

② 中学入試改革

2013年度入試から山梨県内では初めて導入された中学専願入試の「英語(選択)」は、十分に周知され受験生を集めている。この間、小学校での外国語活動も取り入れられ英語を巡る教育の重要性も高まっている。今後も「英語の山梨英和」を内外に示していくために、英語を得意とする受験者層の拡大を目指したい。また、中学スカラシップ入試を県内で初めて導入し、学力のある受験者層の拡大を目指してきた。2023年度入試からは、この目的に沿うように、専願入試の判定とスカラシップ選考を「国語・算数」の2科目型と「国語・算数・英語」の3科目型でも行えるように工夫した。その結果、英語選択者が増加し、当初の目的を果たせた。

「中学入試スカラシップ対策講座」を従来の8月実施から10月実施に変更したところ、多くの参加者が集まり、スカラシップ入試のアピールとして有効であった。スカラシップ入試の受験者の学力レベルも上がっている。また、広く受験生増加を図るため、これまで10月に実施してきた「中学入試問題解説講座」を8月に実施したことで幅広い層の希望者の参加を得た。次年度募集にも活かしていきたい。

③ 海外・帰国生、私費留学生の受け入れ強化

少子化の中、生徒数を確保するため、「海外・帰国生入試」の受け入れの強化を図った。私費留学生の受け入れは中国におけるエージェントを通して軌道に乗ってきている。今後は、広く海外・帰国生や留学生を受け入れるため、英語版の学校案

内やSNSによる情報発信など海外への情報発信に力を入れる。

- ④ グリンバンク杯（英語スピーチコンテスト）改革
2021年度「グリンバンク杯（英語スピーチコンテスト）」が改革され、小学生向けの部門も開催された。中学生部門はもとより、小学生部門の参加者が増えていくようにコンクール実行委員会と連携する。
- ⑤ 高校入試改革
2013年度入試より、これまで実施していた校長推薦の特待生に加え、一般入試にスカラシップ入試を導入し、その機会を高入生だけでなく内部進学生にも平等に与え、成績上位層へのアピールをはかった。受験生のモチベーションの向上のため2022年度は更に認知度をあげ、生徒増を目指した。推薦入試での受験生の増加を図り推薦特待生の周知を進めるため、特待生選考を受験生が出願の際に申請できるように変更した。2017年度入試から設けられた「S種特待生（原則3年間）」の認知度を高め成績優秀な受験生にアピールする。
- ⑥ 高校習熟度授業の導入
2020年度の入学生から、国語・英語・数学においてクラスにとらわれない習熟度による授業を行っている。2023年度からは習熟度に合わせたクラス編成を高校2年生から取り入れ、一人ひとりを伸ばすきめ細かな指導と上位層を伸ばし進学実績を高める指導実績をアピールしていきたい。
- ⑦ Web出願の導入
2023年度入試から、県内の私立中学・高校がそろってWeb出願に切り替えており、本校でも中学・高校ともにWeb出願を導入し、受験生の行事への申し込みや出願の利便性の向上と効率化を図った。今後は説明会などでの丁寧な説明を心がけたい。
- ⑧ 入学金の優遇
2017年度入試から「同窓生の子・孫・妹への入学金の半額免除」と「在校生の姉妹・姉妹（双子）同時入学者への入学金の半額免除」が実施され、受験への動機づけとなっている。一方で、Web出願に伴い「受験料の優遇」は廃止されたが、そのことによる受験生の減少は見られなかった。
- ⑨ 山梨英和学院広報委員会との連携
中学・高校の募集についても山梨英和学院広報委員会と連携し、組織それぞれの強みを相乗的に発揮した広報活動を目指す。特に、高校から山梨英和大学への進学に当たっての優遇面をアピールし高校、大学ともに生徒・学生の確保に努める。
- ⑩ 小学校訪問、中学校訪問を精力的に行い、指導に当たる先生方との関係を構築し、本校への理解を求め、協力を依頼する。長野県にも積極的に広報していく。
- ⑪ 塾・予備校、ピアノ・バレエ教室などとの関係を深めるため資料の送付やPR活動を行い、受験生の県内情勢の把握・分析に努める。
- ⑫ 生徒、保護者、PTA本会役員OB、同窓会役員・役員OG、教会に連携・協力を要請する。PTA、同窓会の協力により導入した「小・中学生紹介カード」を、PTA総会や同窓会総会に合わせ協力依頼した。教会へも積極的に協力を依頼する。
- ⑬ 小学生対象の英語講座を通して本校の教育の特色や魅力をアピールする。本校の教育を地域に還元していく狙いも強め「U-21小学生対象親子プログラミング教室」など、甲府市教育委員会や山梨県生涯学習推進センターとの連携を図り、内容も充実させ、魅力的な山梨英和の生徒の姿をPRする。

- ⑭ 中学オープンスクールや高校オープンキャンパスのプログラムに工夫を持たせ、特に生徒を全面に出した催しとして「英和生の素顔」をアピールしたい。また、県内唯一の女子校として他校との差別化を図り、「女子教育の強み」を発信していく。さらに、「英語の英和」とも言われる英語指導の内容を強くアピールしていきたい。
- ⑮ ホームページを内容面・ビジュアル面ともに中学・高校への受験希望者に対して魅力あるものにし、積極的に学校の情報を発信していく。2021年度開設したFacebookやInstagramなどSNSの広報活動への積極的な活用を推進する。動画による受験生や保護者に対する訴求力の高さを鑑みて、今後ともHPやSNSに限らず、説明会などでも動画を活用していく。
- ⑯ 山梨英和中学から山梨英和高校へつなげる進路指導の展開を強化し、本校の中学生に対し、山梨英和高校の魅力を十分に伝える方法を工夫する。
- ⑰ 上記方策の実施状況及び告知・PR（学校案内、新聞広告、ホームページ、ポスター・チラシなど）方法等を検証し、より有効な方策となるよう適宜改善する。

6. 施設・設備関係

[当該年度の計画（充実整備・修繕整備計画等）]

(1) 非構造部材の点検調査の徹底

天井や外壁などの非構造部材についての建物使用者による日常的な点検等を徹底し、地震による落下物や転倒物から生徒たちを守るために安全管理に努める。

(2) Wi-fi 環境の更新

オンライン英会話などの利用に伴う回線増強の必要性に加えアクセスポイントの老朽化に対応するため、設備の更新を検討する。

[今後の計画（充実整備・修繕整備計画等）]

- ① 中長期計画を踏まえた旧高校校舎の未利用設備の活用を継続して検討する。
- ② 生徒の安全確保を目的として、既存の施設・設備の補修計画を作成する。
- ③ グリンバンクチャペルのLED化など照明器具の更新計画を策定する。
- ④ ICTを活用した授業改革について研究を進める。

Ⅲ 認定こども園

1 はじめに

2015年4月より施行された子ども・子育て支援新制度による「認定こども園」に幼稚園から移行し、山梨英和学院の三つの幼保連携型認定こども園は0歳の乳児から就学前の年長児までの幅広い子どもたちを受け入れて、キリスト教精神に基づく保育・教育を行っている。

そうした中、認定こども園として求められる開所時間と開所日数を満たせる職員を確保して、保護者の多様なニーズにも対応し、また行政との事務的なやり取りなど多くの課題と向き合う日々を過ごしている。

三園が置かれている状況は、社会の少子化が進む中、教育標準時間認定(1号認定こども)が減少する一方で、保育ニーズの高まりが保育標準時間認定、保育短時間認定(2号認定こども、3号認定こども)の増加という形で現れている。こうした現状において、良質な保育の維持と向上をはかることで園児確保を実現し、経営のさらなる安定をはかることが求められている。その大前提として、山梨英和学院の建学の精神を堅持し、すべてのこどもの最善の利益をはかる園を目指したい。

キリスト教教育・保育を持続的かつ安定的に展開させるには、何よりも保護者に信頼され、選ばれる園でなければならない。そのためには、「認定こども園教育・保育要領」に基づく保育実践は当然であるが、園の設立理念に基づく質の高い教育・保育を提供できる教職員の確保と育成、保育教諭としての技能・力量の一層の向上をめざすことが求められる。またその実践のためのよりよい環境の整備と確保、組織体制の構築、研修の充実をはからなければならない。

諸課題を解決する上で、職員相互の信頼と協力関係の構築は欠かせない。山梨英和学院の建学の精神であり、かつキリスト教保育の基盤である聖書の学びはもとより、職員間の円滑な意思疎通をはかる努力と工夫が一層求められる。園が置かれている社会は激しい変化のただ中にある。多様化するニーズ、配慮を要するこどもや保護者への対応など、諸課題への適切な対応が三園には求められている。

2024年10月、カートメルこども園、ダグラスこども園は、新園舎が完成し、新たなスタートを切ろうとしている。そんな中、もう一度初心に帰り、山梨英和学院の幼保連携型認定こども園として、安易に時流に流されることなく、将来に渡る見通し、ビジョンをもって、キリスト教信仰とそれに基づく保育・教育にこれからも専心し、なお一層の活動展開をはかりたい。

2 主な保育・教育の概要

(1) 教育課程の編成及び実施に関する方針

- ① 子ども一人ひとりの発達段階や家庭環境に配慮し、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に沿った指導、環境構成を行い、就学まで一貫した教育・保育を子ども達に提供する。また子育て支援や障害児教育、地域との交流など、地域には開かれた園として子どもを取り巻く社会への働きかけを積極的に行い、地域福祉に寄与する教育・保育施設をめざす。
- ② 教育及び保育の内容並びに子育て支援等に関する全体的な計画を作成する。
- ③ 指導計画の作成と園児の理解に基づいた評価を行う。
- ④ 特別な配慮を必要とする園児への適切な指導を行うと共に各園児に最も適切と思われる指導計画を作成する。

(2) 入園児の受け入れに関する方針

各園の認可定員に基づき子ども・子育て支援法第19条第1項の各号に掲げる就学前の子どもの区分ごとに利用定員を定めて受け入れる。

3 事業計画

(1) 重点事業

[当該年度の計画]

- ① 幼保連携型認定こども園教育・保育要領を踏まえ、就学までの切れ目のない一貫した教育・保育を、遊びを中心としたキリスト教保育として実践、展開する。
- ② こどもたちの発達段階、個性、家庭環境などに配慮し、こども園がこどもと保護者が安心して過ごせる場となるようにつとめる。
- ③ 園児の健康と安全につとめる。
- ④ 教育・保育、子育てプログラムの充実をはかり、こどもたちの個性をのばし、保護者の子育てを支援する。
- ⑤ 自然に親しみ、他者と交わる機会を提供し、種々の体験や学びを通してこどもたちの豊かな情操、創造力、感受性、知的好奇心、忍耐力、集中力などを養う。
- ⑥ 研修を充実させて保育教諭の資質・技能の向上をはかる。あわせて職員間のコミュニケーションの向上につとめ、同僚性の一層の確保を実現して質の高い保育・教育を提供できるようにする。研修においては特に「気になるこども」（特別な支援が必要なこども）、またその保護者への対応、配慮のスキルアップをめざす。
- ⑦ 保護者や地域の保育ニーズに応える山梨英和らしい事業を実施する。
- ⑧ 保護者や職員が建学の精神の基であるキリスト教の信仰と聖書に親しめる機会を設ける。
- ⑨ 地域の子育て支援の拠点となるよう努め、地域社会に貢献する。
- ⑩ 小学校へのスムーズな接続について一層の強化、連携をはかる。
- ⑪ 地域の高齢者等との交流の機会を大切にする。
- ⑫ 新制度の実施主体である各市町との連携、協力体制の一層の確立に努める。
- ⑬ 山梨英和学院の他部門との連携、協力を努める。

[今後の（中・長期的な）計画]

- ① 建学の精神を堅持しつつ、子ども・子育てにかかわる動きに適切に対応し、幼保連携型認定こども園としての一層の機能充実をはかり、地域に貢献できる園となる。
- ② 保育・教育・子育て支援を十分に展開できる規模、体制、施設の構築等の検討を行い、その実現をめざす。
- ③ 上記の目的を達成するために、「保育・教育・子育て支援」「利用定員・職員配置」「園舎・環境構成」「事務・経理」「その他」の事項に関わる中長期経営計画を立案し、実行をはかる。

(2) 保育・教育関係人事

- ① 適切な職員の配置を行い、保育の質の向上と業務の負担軽減をはかる。
- ② 処遇改善等にかかわる運営体制の適切な構築をはかる。
- ③ カリキュラム・プログラムの精選、深化、展開を意識した人員の配置、研修、諸活動を行う。

(3) 定員の見直し

カートメルこども園、ダグラスこども園については、園の所在する市町村の要請や利用

二一

ズのを踏まえ、園舎の完成する 2024 年 10 月に、次のとおり認可定員及び利用定員の見直しを行う。

	カートメルこども園	ダグラスこども園
1 号認定園児	24 人 (45 人)	24 人 (25 人)
2 号認定園児	60 人 (45 人)	45 人 (40 人)
3 号認定園児	36 人 (25 人)	39 人 (30 人)
計	120 人 (115 人)	108 人 (95 人)

※カッコ内は、2024 年 9 月までの定員

4 園児募集関係

- ① 園案内、ホームページ、通信等の広報・メディアを活用する。
- ② 山梨英和プレストンこども園は笛吹市の子育て支援拠点事業を継続し、他の 2 園は行政や地域の子育て支援センター等とのかかわりを緊密なものとして園の存在と働きを広く知らしめる。
- ③ 講演会や諸集会等を通して子育てにかかわる人たちが集える場を設ける。
- ④ 在園児、卒園児、未就園児、父母の会等を通じて入園希望者の情報を入手し、募集に生かす。

5 施設、設備関係

- ① 園児の安全確保のために施設、設備、遊具等の点検、補修、改修につとめる。
- ② 教育・保育環境の整備・充実をはかる。
- ③ 地震・災害対策及び防犯対策等について必要な対策を講じる。
- ④ 山梨英和カートメルこども園及び山梨英和ダグラスこども園については、2024 年 10 月の完成を目指し、園舎を建設している。
 - ・カートメルこども園は、現在の園舎西側の土地を取得し、園舎を新築している。
 - ・ダグラスこども園は、現在地（韮崎市富士見）がハザードマップ 5 m 浸水地域に当たるため、韮崎市藤井に移転し、新築している。
- ⑤ プレストンこども園については、経年劣化した施設・設備の改修を行う。

IV 学校法人（法人本部）

○ はじめに

法人本部は、学校法人の管理部門として法人全体の総務、経理等の管理業務を適正かつ効率的に遂行し、設置学校3部門のサポートと3部門間の調整にあたる。また、理事会・評議員会・常務理事会の事務局を担うと共に理事長および学院連絡会に対して経営判断に資する適切な情報提供を行う。なお、山梨英和学院全体としての各種事業・行事の事務を担う。

上記の経常的な業務の外、2024年度は向う5年間の新たな中長期計画が開始されることから、法人施策の実行と共に各部門の施策の実行・評価・改善、PDCAサイクル管理をサポートする。また、2025年度から施行される改正私立学校法に則したガバナンス体制構築のため、寄附行為および関連規程の改定を行う。また、ガバナンス・コード（私立大学連盟ガバナンス・コード）の未遵守項目の解消に努める。

□ 基本方針

学校法人の管理部門としての業務を適正かつ効率的に遂行し、経常的な事業・行事を実施すると共に、限られた人的・物的資源の下、2024年度においては以下の3課題に対応する。

1. 新中長期経営計画の事業計画の具体策の策定と実行
2. 改正私立学校法への対応
3. ガバナンス・コードへの対応（未遵守項目の解消）

□ 事業計画

1. 新中長期経営計画の事業計画の具体策の策定と実行
 - (1) 建学理念の浸透
 - ・校訓、ミッション（10年）の学院内への浸透
 - (2) ガバナンスの強化
 - ・経営体制の公正化と強化
 - ・権限移譲
 - (3) リスク管理の強化
 - ・諸リスク管理の強化
 - ・コンプライアンスの徹底
 - (4) 事務組織体制の強化
 - ・事業計画推進と連動した組織強化
 - ・職員人事制度の見直し（目標管理制度の導入）
 - ・研修の充実と人材育成
 - (5) 財務体質の強化
 - ・学納金・補助金以外の収入増加（寄附金・資金運用益・その他収入）
 - ・事務合理化に伴う経費節減
 - (6) ブランドの維持・向上
 - ・ブランディング活動の実施
2. 改正私立学校法への対応

理事選任機関の設置を始めとする2025年度施行の改正私立学校法へ対応した体制、ルール策定とそれに基づく寄附行為、関連規程の改定を行う。
3. ガバナンス・コードへの対応（未遵守項目の解消）

2024年度内に内部監査室を設置し内部統制システムの充実を図る。
4. 法人本部が担当する経常的な事業・行事
 - (1) 定期理事会・評議員会・常務理事会の開催
 - ・定期理事会は5月、7月、9月、11月、1月、3月に開催する。
 - ・定期評議員会は5月、9月、3月に開催する。
 - ・常務理事会は各月（8月を除く）に開催する。
 - (2) 山梨英和学院教職員修養会
 - ・2024年5月18日（土）大学グリーンバンクホールにて開催する。
 - (3) 山梨英和学院教職員クリスマス礼拝
 - ・2024年12月7日（土）中高グリーンバンクチャペルにて開催する。

- (4) 維持協力会活動
 - ・ 役員企業の訪問並びに山梨英和学院維持協力会報第18号の発行を通じて、寄付金に係る税制上の優遇措置(寄付金控除)の周知と会員の増加を図る。遺贈制度の周知を図る。
- (5) 教職員健康診断・ストレスチェックの実施
 - ・ 5月に教職員健康診断、6月にストレスチェックを実施する。
- (6) 情報公開
 - ・ ホームページ上に、「中期的な計画」、「寄附行為」、「役員・評議員名簿」、「役員報酬規程」、「運営機構図」、「事業計画書」、「事業報告書」、「決算書」、「財産目録」、「監査報告書」及び「行動計画」を掲載する。
- (7) メイプルニュースの発行
 - ・ 広報誌「メイプルニュース」第65号を7月に発行する。
- (8) 第20回三英和懇談会
 - ・ 旧カナダ・メソジスト教会との関係により設立された姉妹校3校による「三英和(東洋英和女学院・静岡英和女学院・山梨英和学院)懇談会」を静岡英和学院が幹事となり7月に開催する。
- (9) キリスト教教育懇談会
 - ・ 2024年度内に山梨県内諸教会とのキリスト教教育に関する懇談会を開催する。
- (10) 職員新年礼拝
 - ・ 2025年1月6日(月)に職員新年礼拝を実施する。
- (11) 永年勤続教職員表彰
 - ・ 2025年3月31日(月)に永年勤続教職員を表彰する。